

## 第43回北信越フットボールリーグ開幕にあたり



北信越社会人サッカー連盟

会長 西田 力 生

北信越フットボールリーグ（HFL）の43回開幕にむけて関係各位のご尽力に感謝申し上げ、参加各チームにエールを送るとともに、一言挨拶を申し上げます。

昭和49年（詳細な月日は忘れましたが）金沢二水高校グラウンドに於いて、富山・福井・石川三県の社会人トップチームによる交流戦が行われました。翌年の第1回北信越サッカーリーグ（HSL）発足に向けての試みであった様に記憶しています。当時、私はテイヘンズFCに所属し、公式戦・練習試合の多くは県内チームとの対戦でした。他県の強豪チームとの対戦は新鮮で、リーグ戦による定期的な対戦は、レベル向上につながる様に感じました。「光陰矢のごとし」と申しますが、時の経つのは早いもので、「あれから40余年も経ったのか！」と感無量の思いであります。選手・監督・リーグ役員・連盟役員と、様々な立場でHFLに携わってきましたが、気がつけば当時からの関係者は少なくなり寂しい思いが致します。Jリーグが誕生してから20数年、私がプログラム巻頭の挨拶文を執筆するようになってから10数年が経ちますが、その間、日本サッカーを取り巻く環境は、毎年日々刻々と変化し、執筆に際し取り上げる話題も多くあった様に思います。HFLでは第21回から36回にかけての10数年は、北信越の社会人サッカーが全国的に認知され躍進した時期であります。第1回から10回にかけての黎明期とは別の緊張感に包まれ、全国での戦いの場を求め、多くのチームが切磋琢磨してリーグは活性化し、HFLの歴史に携わった関係者の思いが結実した時期でありました。

「サッカーは少年を大人にし、大人を紳士にする。」と云う言葉を、若い頃にサッカーの雑誌で見たことがあります。私の記憶に間違いがなければ、日本サッカー育ての親であるドイツのクラマーコーチの言葉であったと思います。サッカー（スポーツ）は人間を成長させるという意味であろうかと思いますが、サッカーが競技として面白いと感じるだけなら、なかなか人間的な成長には結びつかないのではないのでしょうか。競技に携わる人（チーム・組織）自身の多くの経験の蓄積が、人（チーム・組織）を成長させ、競技そのものも進歩して次ぎの世代に引き継がれる、それがスポーツ文化の礎になっていくのではないかと思います。そういう意味においてHFLはサッカーを志す若者にとって、格好の場であります。本年のHFLが大いに盛り上がる事を期待します。

又、福井県では本年全国社会人サッカー大会が、来年は国体が開催されます。40数年を経て再び巡ってくる大きなイベントに向かい、HSL発足当時から現在に至る迄、福井県サッカー協会でご尽力されている関係諸氏のご活躍と、各大会の成功を祈念いたしまして挨拶とさせていただきます。